

ホームページ公開・研究対象者情報通知用

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）と診断された患者さんへ
ー臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願いー

研究課題名：好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）患者の後方解析による治療効果の検討

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（略語：EGPA；Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis）は気管支喘息または慢性副鼻腔炎などのアレルギー疾患を背景に出現する、末梢血好酸球増多を伴う原因不明の全身性壊死性血管炎です。EGPA の治療の第一選択薬は全身ステロイド薬ですが、ステロイドにシクロホスファミド、アザチオプリン、メトトレキサートなどが併用されてきました。しかし、近年、病態の解析が進み、好酸球の分化・増殖・活性化に関わるサイトカインのインターロイキン-5（IL-5）に対する治療薬であるメポリズマブ（mepolizumab）やベンラリズマブ（benralizumab）が新規治療として使用されるようになっていきます。時代とともに早期発見・治療、治療法が開発され、予後は改善してきました。しかし、より長期間（たとえば5年間、10年間）での予後はわかっていません。さらなる診療の向上のためには、予後を明らかにする必要があります。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方、およびご不明点等がございましたら、下欄の本学での研究内容の問い合わせ担当者までご連絡ください。

[研究課題名]

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）患者の後方解析による治療効果の検討

[研究対象者]

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）

[利用している情報の項目]

年齢・性別など、症状・徴候、検査、診断、治療、重症度に関する項目

[利用の目的]

EGPAの診療実態を解明することを目的としています。
調査結果を元に統計解析を行い、治療方法と予後との関連を調べます。その結果は同じ病気にかかる（かかっている）方々の診療に役立てていただくための資料となります。（遺伝子解析研究：無）

[研究期間]

期間：倫理委員会承認後より2030年3月までの間（予定）

[研究方法]

個々の原因や治療内容、経過などに関する情報をカルテよりデータ収集・集計し、統計解析を行います。

[調査に関するプライバシーの保護]

本調査はこれまでに皆様が診療を受けた際のカルテの記録を元に調査が行われます。新たな検査や治療法等を行うものではありません。上に記載した通り、各患者様の診療内容（診断、治療内容や予後などの詳細）が調査されます。個人の特定に直結するデータ調査はありませんが、研究が終了した時点で資料は責任を持ってすべて削除、廃棄します。

本研究で得られた情報を二次利用する可能性があります。その際は、改めて倫理委員会の承認を得た上で、研究対象者に情報の公開を行います。

[調査研究対象者の権利に関して情報が欲しい場合、調査研究に同意されない場合等各種の相談窓口]

この研究の対象となっている可能性がある EGPA にかかっている方々で、調査内容および研究対象者の権利に関してさらに詳しい情報が欲しい場合やその他何かお聞きになりたいことがありましたら、遠慮なくいつでもご連絡ください。連絡をとる担当者は下記のとおりです。また、そのうえで調査研究に同意されない場合には、分析対象から除外いたします。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお、すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

以上のことをご理解いただき、調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

2025 年 9 月

[研究代表者、および研究内容の問い合わせ]

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2 電話：0422-47-5511（内線 23631 対応可能時間：平日 9 時～16 時）

杏林大学腎臓・リウマチ膠原病内科 講師 川嶋聡子